

| 重点目標                                  | 重点取組                                                                                                                                                                          | 学年 | 重点取組に対する具体的方策                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|---------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1<br>個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実及びキャリア教育の推進  | ① 国指定事業の充実と白い森未来探究学の深化により、持続可能性の高いカリキュラムを開発する。                                                                                                                                | 1年 | ○生徒が自己理解や他者理解を深め、内面の言語化及び対話による深化を図れるような学習の場を計画的に設定する。<br><br>○面談を適宜実施して生徒理解を深めるとともに、生徒の「主体性」「挑戦心」「協働力」の成長に対する承認を随時行って意欲を喚起する。<br><br>○ICTを活用して、個別最適な学びに取り組めるよう促す。<br><br>○読書活動を啓蒙し情操教育をする。                                                                                                                                    |
|                                       | ② ICTを活用し、個別最適な学び・協働的な学び、教科等横断的な学習を実践することにより、本校生に育みたい資質・能力を伸ばす。                                                                                                               | 2年 | ○海外研修旅行などの機会をとらえ、保小中高連携事業の重点となっている「国際」と「情報」に係わる活動に、生徒が主体的・計画的に取り組むような指導を充実させる。<br><br>○教科学習、進路学習、総合的な探究の時間の三本柱の相互の関連性をとらえ、育成したい資質・能力の往還を授業で実践する。<br><br>○インターンシップや地域ボランティアなどの機会を通じて生徒の職業観や勤労観を深めるとともに、生徒が自分の適性を理解し、就職や進学についてより目標を深化できるような支援を行う。<br><br>○生徒の実態に応じて面談を行い、学校生活での課題や進路について、具体的な数値や資料を示しながら生徒自身が主体的に考え行動できる環境を整える。 |
|                                       | ③ 地域や企業・大学等と連携したキャリア教育や体験的教育活動を推進し、キャリア意識を醸成する。<br><br>④ 個々の進路希望の実現を目指し、面談等を通じて意欲的・計画的な学習態度を涵養する。<br><br>⑤ 図書館等の活用により、高い教養と豊かな心の醸成を図る。                                        | 3年 | ○白い森未来探究学や個人毎の進路活動を通して、意思ある選択ややり抜く力を向上させる。また、生徒一人一人の進路実現に向けて協働的に支援をする。<br><br>○基礎学力の定着と自学自習習慣を育成するため、主体的・継続的な学びを促す。<br><br>○朝学習を通して、計画力・課題設定力を養成する。                                                                                                                                                                           |
| 2<br>生徒一人ひとりの発達を支え、社会的資質・能力を育む生徒指導の充実 | ① あいさつの励行や基本的生活習慣の確立に向けた援助・助言を行い、自律した社会人としての基礎固めを行う。                                                                                                                          | 1年 | ○一人ひとりが、自分の個性・特性・状態に目を向け、「自分はどうしたいのか」自己決定を促し、自分の望む姿に近づけるよう支援をする。<br>○自分や他者を大切にすることを育み、学年集団の共感的な雰囲気醸成する。<br><br>○「自分にできる挑戦」を模索させる。<br>○校内MC委員会、保護者、町教育委員会、寮アシスタント、必要に応じて福祉関係者とも連携して生徒一人ひとりに対応していく。                                                                                                                             |
|                                       | ② 共感的な人間関係づくりや集団形成を支えることで、生徒一人ひとりが個性的な存在として尊重されるような学校の雰囲気をつくる。<br><br>③ 学校行事やボランティア活動等への主体的な取り組みを通して社会とのつながりを意識させ、生徒一人ひとりの自己有用感を醸成する。<br><br>④ いじめのない学校を目指し、継続的にいじめ防止対策を徹底する。 | 2年 | ○自己管理能力を育む指導を行うとともに、さくら連絡網などによって生徒の心身の状態を確認し、生徒自身や保護者の困り感を把握しながら個別の支援を行う。<br><br>○校内外の活動を通じて、学校を代表する立場としての生徒自身の言動について自覚を促し、規範意識を育む。<br><br>○校内外の様々な活動に参加することによって、生徒一人一人の役割や他者に対して必要とされている存在であることの自己理解を促す。<br><br>○生徒が抱える自己や対人的な問題に係る不安を早期に把握し、保護者、MC特支委員会、町教育委員会などとも連携して状況の改善に努める。                                            |
|                                       | ⑤ 地域と連携しながら放課後活動の充実を図る。                                                                                                                                                       | 3年 | ○日頃から体調管理の呼びかけを行い、心と体の不調を未然に防止できるようにするとともに、受験期や将来に必要な自己管理能力を養成する。<br><br>○学校を代表する最高学年かつ成人に必要な規範意識を醸成する。<br><br>○各種行事などでリーダーシップを発揮するとともに、仲間同士が認め合えるような関係性を築く。                                                                                                                                                                  |
| 3<br>安心・安全かつ信頼される学校づくり                | ① コミュニティ・スクール運営やアフターコロナに合わせたPTA活動を実施し、学校・家庭・地域が一体となった活動を工夫して行う。                                                                                                               | 1年 | ○家庭・地域との協働関係を促進するために、学年通信やさくら連絡網、SNSを活用しながら、生徒の活動の様子を積極的に広報する。<br><br>○自他の命を大切にし、お互いに安心・安全な学校生活を保持するため、適切な判断ができるよう促し、事故の未然防止に努める。                                                                                                                                                                                             |
|                                       | ② 特色ある教育活動や生徒の活躍を積極的に発信し、学校の魅力を伝える。                                                                                                                                           | 2年 | ○家庭や地域との協働関係を促進するために、学年通信やSNSなどを活用しながら生徒の学びの様子を積極的に発信する。<br><br>○安心で安全な学校生活を送るため、命の大切さや他者を思いやる心を育み危険を回避する思考・判断を促しながら、事故の未然防止に努める。                                                                                                                                                                                             |
|                                       | ③ 危機管理体制の維持及び施設設備の安全管理により事故防止に努める。                                                                                                                                            | 3年 | ○家庭・地域との協働関係を継続するために、学びの様子を積極的に発信する。<br><br>○様々な活動をする中で事故防止のため安全管理に務め、自他の命の大切さや周囲への配慮を意識した姿勢を育む。                                                                                                                                                                                                                              |